

川上ダム通信

2005
5 創刊号
月号

発行者
独立行政法人水資源機構
川上ダム建設所
〒518-0294
三重県伊賀市阿保 251 番地
TEL: 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

発刊に寄せて



過日、地域のみなさんが企画され主催された「川上ダム建設促進決起集会」の大盛会は、自らの生命財産を守るために自ら立ち上がったという意思表示と、苦渋の決断を以て事業への協力を選択された関係者の「声」が集約された 500 人集会であったと感じております。一刻も早く「期待に応えます」と言えるように準備を整えることが私たちに与えられた使命であります。

羅針盤はしっかりしており、夜明けは近いと確信しています。このような時期に、川上ダム建設事業の節目時に身を置いている証と、地域から喜ばれる仕事に切磋琢磨する仲間の情報誌として「川上ダム通信」が発刊されることを衷心より喜びたい。

【川上ダム建設所所長 恒・徹】



川上ダム建設促進決起集会に参加された皆さん



川上ダム決起集会開かれる

川上ダム早期着工を求める「川上ダム建設促進決起集会」が先月 9 日、伊賀市青山ホールで開かれました。当日は地元出身の国会議員や市民など約 500 名と国土交通省の代表、青山俊樹水資源機構理事長らが参加し盛大に開催されました（上写真）。

集会では今岡睦之伊賀市長や水没移転者代表らがそれぞれの立場で、地元住民のこれまでの苦労や歴史を交えながら、川上ダムの本体工事に早期着工するように訴えました。

～ 用地功労表彰を受けて～

菊竹副所長、用地功労賞受賞!!

「一生懸命」より「一緒に懸命」

平成17年5月20日、近畿地区用地対策連絡協議会の平成17年度第45回通常総会が執り行われ、永年にわたり用地補償業務に精励し多大な貢献があったことにより、近畿地区用地対策連絡協議会会長(近畿地方整備局長)から表彰状をいただきました。

近畿地区用地対策連絡協議会は昭和39年に設立され、国土交通省、農林水産省、公団、各府県、電力、私鉄各社等の44会員をもって構成されています。本会は、近畿地区における公共事業の用地取得に関する損失補償基準の運用調整及び用地取得計画の調整並びに用地補償に関する調査、研究、広報等の共同活動を行い、もって公共用地の取得と公共事業の円滑な推進に寄与することを目的に活動をしています。

用地補償業務も地権者の要望が多様化し、多々、用地解決の遅れから事業執行に支障を来している現状にもありますが、これまでの経験を用地職員に伝承し後進の用地職員を育成しながら、私も切磋琢磨しながら用地補償業務に従事したいと思っています。最後になりますが、自分自身が心がけていることを述べて用地功労表彰受賞の報告といたします。世の中に「一生懸命」という言葉がありますが、「一緒に懸命」のほうが仕事はスムーズに進むと思います。 【副所長 菊竹昭雄】



川上ダム、観光マップに掲載

青山町駅前にある青山町(現伊賀市)観光マップ。このマップに川上ダム建設予定地も掲載されています。普段なかなか目が届きにくいですが、電車を使う機会などがあったら是非一度マップを覗いてみてください。



献血への協力

去る5月20日(金)、川上ダム建設所において献血が行われました。

当日は事務所職員12名に加え、周辺住民の方々も献血にご協力されました。

今後とも一層のご協力をお願いします。



～ 下流河川環境の復元に向けて～

土砂供給 & フラッシュ放流を実施：一庫ダム視察報告



鮎シーズン前の5月20日(金)、事前にダム直下の河川敷にトラックにて上流側の土砂を運び入れ、フラッシュ放流¹⁾を行うことで、土砂の供給と河川の攪乱を促す試みが、兵庫県川西市にある一庫ダム(猪名川)で行われた。

9:30より試験開始。散歩や釣りが楽しめる河原などには巡視員を配置し警戒に当たり、適宜試験実施の警報を鳴らして、10分刻みで放流量を増加させていく²⁾。拙者も午前中はダム直下の土砂投入箇所をビデオ撮影し、午後は下流巡視を行った。同じく関西支社と琵琶湖開発総合管理所からもそれぞれ2名ずつがサポートに加わった。昼過ぎにピーク放流量である16.5m³/sに到達。その頃にはダム直下の河川敷に運び入れた土砂が少しずつ流れ出され、ゴーっと流れる音が河川に響いた。

こうして土砂の供給と河川の攪乱によって石が磨かれると、その後、鮎の好物である新鮮な藻が生えてくる。河床に貯まった土砂は、魚の産卵場所や底生動物のすみ場になる。ちなみに2日後の日曜日に開催された鮎放流のイベントは、きらめく川を舞台に大いに盛り上がったとのことである。

一庫ダムは昭和58年の管理開始から20年以上が経過し、ダム下流河川では河床に石や砂が少なく、水際までヨシが繁茂した状況。そこで、住民からの強い要望もあり、下流河川環境復元のための対策を試行的に実施していこうと、平成14年には玉石の投入やヨシの除去を、平成15年からは土砂の投入とフラッシュ放流を実施してきた。今回の取り組みもその一環。同様の取り組みとしては、高山ダムや比奈知ダムでも4月下旬から6月上旬にかけてフラッシュ放流が行われている。【環境課 上坂ゆき子】

1) フラッシュ放流とは、流量が平滑化した河川に、ダムに貯めている水を放流することで流量変動をもたらす手法で、“よどみ”の発生を抑え河川をリフレッシュする効果がある。一庫ダムでは、貯水位を洪水期制限水位まで下げる時期に、洪水調節容量内に貯留した水を利用してフラッシュ放流を実施している。

2) 安全対策は関係機関との協働で行われており、本文で紹介した安全対策のほかにも、浄水施設や小学校などへの連絡や、河川管理者である国土交通省によるパトロール車での巡視も実施されている。



土木学会中国支部発表会に参加して

土木学会では、各支部で学術、技術の向上に向けて研究発表会を行っています。5月21日(土)、広島県の呉工業高等専門学校において中国支部の発表会が行われ、私は広島大学時代に共同研究として実施した「護床ブロックに作用する流体力とその変形機構」についての広島大学の研究論文の発表に参加しました。護床ブロックとは、みなさんには聞き慣れない言葉だと思いますが、一般に河床の洗掘を防ぐために設置されるコンクリートブロックのことで、堰の下流などに多く設置されます。共同研究では、洪水などによって流失しないような構造

を構築すべく日夜努力しており、今回はブロックの流失要因である流体力と変形のメカニズムについての成果発表を行いました。【工務課 田中幸志】

通信記者紹介

武村 剛泰（たけむら たかひろ） 平成17年度入社・総務課



出身地 埼玉県鴻巣市（鴻巣研修所がある場所）

趣味 青春18切符旅行、大学野球応援、読書、ウォーキング

加入部 ボウリング部、野球部

通信記者になったの抱負 少しでも所内の話題作り・コミュニケーションの活性化に貢献できるよう励んでいきますので、ご助力のほどよろしくお願いいたします。



田中 幸志（たなか こうし） 平成17年度入社・工務課

出身地 福岡県柳川市（高校まで福岡、大学は広島でした）

趣味 映画・音楽鑑賞（激しい曲にかぎる！）

加入部 ボウリング部、野球部（少々、経験有り）

通信記者になったの抱負 所内のみならず、地域の皆さんにも喜んで下さるような“楽しい広報誌”を作っていきたいと思います。

6月のイベント

《伊賀市》

ノスタルジックな世界へ～小山川のホタル

伊賀市北部の小山川周辺は山沿いにのどかな田園風景が広がっており、6月からはたくさんのホタルが飛び交います。

○場所：伊賀市島ヶ原

《名張市》

愛すべき川を～名張川クリーン大作戦

6月5日は環境の日。良い水環境を未来へ引き継ごうと『川の会・名張』が主催するイベントです。職員の方は奮ってご参加を!!

○日程：6月5日(日)9:30～11:30

○場所：名張川新町橋周辺

○問合せ先：名張市生活環境室 0595-63-7492

マイナスイオンを浴びに～『赤目四十八滝』自然探求ツアー

日本の滝100選にも選ばれた赤目四十八滝。マイナスイオンたっぷりの渓谷に棲むオオサンショウウオやカジカガエルの自然の姿を探しあててみてください。

○行程：日本サンショウウオセンター 赤目四十八滝散策 滝壺まで3.2km 来た道を折り返し 解散(全行程6.4km)

○日程：6月5日(日)

○問合せ先：赤目四十八滝渓谷保勝会 0595-63-3004

編集後記

このたび、川上ダム通信を発行させていただくことになりました。編集者一同初めての試みですが、今後月1回の発行を目指し頑張っていきますので、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

なお、次回は青山高原マラソンや新技術の紹介を行う予定です。このほか、ご意見やご感想がある方は通信記者までお願いします。

初夏の陽気が続いています。皆様、健康にはくれぐれもご留意されますように。

広報誌発行事務局

編集長 恒・徹（川上ダム建設所長）

デスク 上村 信幸（総務課長）

〃 二林 修（工務課長）

通信記者 武村 剛泰（総務課）

〃 田中 幸志（工務課）